

第Ⅱ期（2024年度-2028年度） 中期経営計画

2024年（令和6年）4月1日



学校法人 梅村学園
UMEMURA Educational Institutions

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1.学園の概要..... | 1 |
| 2.校訓・建学の精神 | 1 |
| 1) 校訓「真剣味」 | 1 |
| 2) 建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」 | 1 |
| 3.UMEMURA VISION 2033 | 3 |
| 4.NEXT10 2033、NEXT10-sh 2033 | 4 |
| 5.第Ⅱ期中期経営計画の概要..... | 4 |
| 6.アクションプラン（法人） | 5 |
| 1) 財務..... | 5 |
| 2) 施設・設備..... | 5 |
| 3) 人事..... | 5 |
| 4) スポーツ..... | 6 |
| 7.アクションプラン（大学） | 7 |
| 1) 教育..... | 7 |
| 2) 研究..... | 7 |
| 3) 大学院..... | 8 |
| 4) 国際化..... | 8 |
| 5) 学生支援..... | 9 |
| 6) キャリア教育・支援..... | 9 |
| 7) 社会連携・社会貢献..... | 10 |
| 8) 学生の受け入れ..... | 10 |
| 9) 大学運営..... | 11 |
| 10) 財務 | 11 |
| 8.アクションプラン（高校） | 12 |
| 1) 教育..... | 12 |
| 2) 教科外活動 | 12 |
| 3) 高大連携..... | 12 |
| 4) 社会連携..... | 13 |
| 5) 国際化..... | 13 |

1. 学園の概要

梅村学園は、1923年（大正12年）、水戸学の流れを汲む教育者・梅村清光が創立した中京商業学校（現在の中京大学附属中京高等学校の前身）を母体として誕生し、2023年（令和5年）には、創立100周年を迎えました。

学園の中核となる中京大学は、1954年（昭和29年）に商科単独の中京短期大学として開学し、ついで1956年（昭和31年）に4年制の中京大学商学部として開学しました。常に時代の要請に応えながら研究科・学部学科の拡充に取り組み、社会の求める人材の育成に力を注いでいます。現在は、名古屋市と豊田市にキャンパスを有し、10学部及び大学院10研究科を擁する総合大学となっています。

中京大学附属中京高等学校（以下「附属高校」という。）は、1923年（大正12年）の創設後、中京商業高等学校、中京高等学校を経て、1995年（平成7年）に中京大学の附属高等学校となり現校名に改称しました。1998年（平成10年）には、男女共学化を実施すると同時に教育課程も改定し、スポーツで築いてきた伝統を守りつつ、進学校として着実な歩みを続けています。

2. 校訓・建学の精神

1) 校訓「真剣味」

梅村学園の各教育機関の校訓「真剣味（しんけんみ）」は、学園の礎となった中京商業学校を創立し、初代校主兼校長を務めた学祖・梅村清光が、教育の眼目と人材育成の方針として、同校開校時に掲げました。清光は「本校は現実に即して、真剣に戦う現代の訓練を以て目的とし、真に生活を生活する真人間の輩出を期待する」とし、「真剣味」を正面に据えた教育活動を推進する気概を示しました。

清光が掲げた「真剣味」の淵源は、江戸時代末期の水戸藩の藩校だった弘道館の教育理念の一つ、「文武不岐（ぶんぶふき）」です。弘道館は、近代の高等教育機関に近い学問領域を備え、「文」と「武」の両道を不可欠とする先進の教育方針を持つ、全国の藩校の中でも稀有な存在でした。水戸藩士だった清光の先代、先々代は弘道館で学び、文武不岐を実践し、体得しました。水戸で生まれ育った清光は、23歳の若さで小学校校長を務め、教育者の道を歩み始めました。清光は、文武不岐の精神を受け継ぎ、自らの教育の方針として「真剣味」を定めました。

「真剣味」の「真」は真実、真理の「真」です。知育を意味します。「剣」は剣道、剣術の「剣」です。体育・スポーツを表しています。「味」は人間味の「味」です。徳育につながります。「真剣味」は、「知・体・徳」のバランスのとれた人材を社会に送り出していくことを宣言しています。この精神は時代を超え、中京大学及び附属高校に脈々と受け継がれています。

2) 建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」

梅村学園の建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」は、中京大学を開学した初代学長の梅村清明（学園初代理事長）が、四年制の大学発足にあたり、明文化しました。清光が校訓として掲げた「真剣味」の教えを、教職員、学生・生徒一人ひとりが理解し、具体的な目標を持って体得できるように、表現を改め、学園の教育理念として位置付けました。

清明は、「学術の場では学術の研鑽と共に、ジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する。スポーツの場では健康の増強、心技の練成と共に、スポーツマンシップを体得する」と、理念を説きました。

教育・研究の取り組みは、真摯な姿勢で高めていく。学生・生徒が人格を磨き、世の中を堂々と生き抜く人間力を備えるよう導く。スポーツを通じて心身を鍛え、社会に適応し、リードしていく力を養う——。そうした教育を展開していく決意を込めています。

スポーツマンシップの要諦として、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」の四つを明示しました。これを「四大綱」と名付けています。

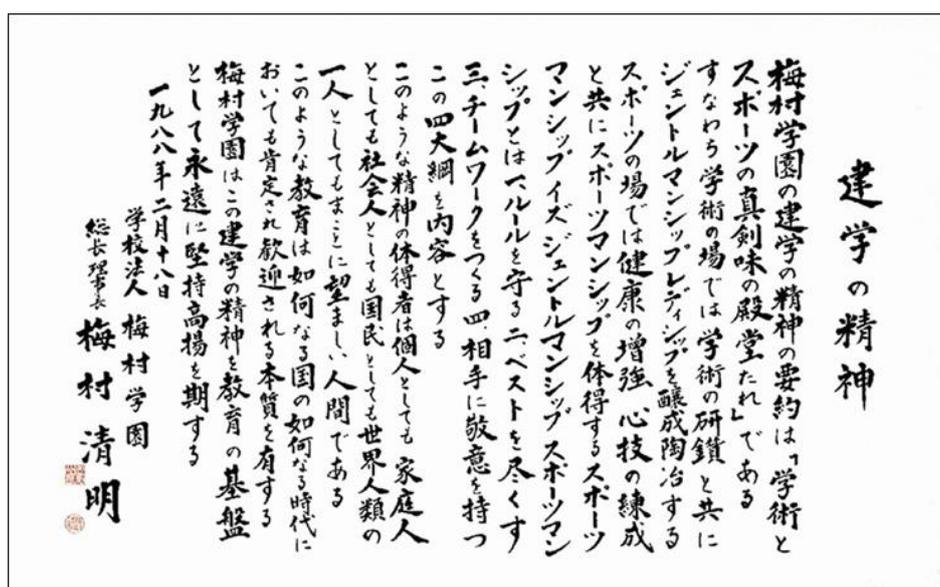
清明は、スポーツの競技に限らず、人生のあらゆる場面で四大綱を実践する大切さに言及しています。「このような精神の体得者は個人としても、家庭人としても、社会人としても、国民としても、世界人類の一人としてもまことに望ましい人間である」とし、社会人、国際人の理想の姿であると規定しました。

その上で、「このような教育は如何なる国の如何なる時代においても肯定され、歓迎される本質を有する」とし、教育に取り入れた普遍的な意義を強調しています。

スポーツマンシップの養成は、清光が中京商業学校を開校した時から教育方針の柱でした。スポーツの持つ社会的、教育的な価値を見だし、学校教育の基本としてきました。梅村学園の一世紀に及ぶ伝統となっています。

建学の精神は、学園各教育機関が「学術とスポーツの殿堂」としての役割を担い、「知・体・徳」を備えた人材育成の拠点としての責任を果たしていくことを明確に表現しています。

本学園が、「文武不岐」の本質を淵源とした、校訓「真剣味」と、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を掲げて取り組んできた、教育・研究の姿勢、人材育成の方針は一貫しています。本学園は、今後もこの独自の教育理念を深化させ、社会に貢献していきます。

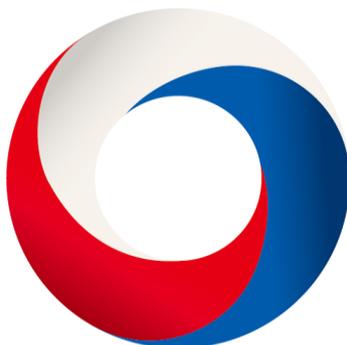


3.UMEMURA VISION 2033

梅村学園は、2023年の創立100周年を新たなスタートと位置付け、昨今の教育機関を取り巻く環境の目まぐるしい変化、社会課題の複雑化・多様化といった社会環境の変化の中で健全かつ適正な運営を行うとともに、教育・研究活動の永続的な発展とその成果を通じた社会貢献を持続的に行うべく、本学園の10年後のあるべき姿を示すものとして長期ビジョン「UMEMURA VISION 2033」を定めました。

挑戦と調和 Challenge and Harmony

真実の美、行動の美、人間の美の追求を通じ、社会にとってなくてはならない人材を輩出していきます。



UMEMURA VISION 2033

まっすぐに真実を探求する精神、勇猛果敢に行動する姿勢、他人への敬意と誠実さをもった人。世界が抱える社会課題を自分の事として捉え、正面から向き合い、自分なりの方法で貢献できる人。それが「社会になくてはならない人材」。梅村学園はそんな人材を社会に輩出していきます。

学生・生徒の目指す人間像

行動（挑戦）を楽しもう

描いた夢が大きければ大きいほど立ち足はだかる壁もまた大きくなります。その壁は全力で取り組むほど、仲間とともに挑むほど、そしてまだ誰も乗り越えたことのないものであるほど、乗り越えたときの楽しさもまた大きくなります。それが自身の成長につながると信じ、進取の精神でより多くの挑戦を楽しんでください。

真実（真理）を探知しよう

地球規模で大きな変化が訪れる時代を生き抜くために、物事の本質を求め、正しさや美しさを見極める重要性が増しています。変化に柔軟に適用しつつ、世界的な社会課題の解決に挑むため、その要因や関連性を多角的に掘り取り、真善美に至る努力をしましょう。真実の探究は正しい答えと新しいイノベーションを生み出します。

人間味を養おう

急速に進むデジタル化と超スマート社会の到来、ダイバーシティとグローバル化の進展など急激に変化する社会のなかで、人と人との関わり合いにも多様性が増しています。そんな未来社会では、社会の変化にも適用できるしなやかさと人間力が今以上に求められます。人と人とのつながりを大切に、相手に敬意をもって協力し合うことで、スポーツマンシップにもとづく人間力が養われます。

目指す学園像

学術の進化と深化

持続可能な社会の実現と地球規模の社会課題の解決をめざし、多様なリソースをもとに、未来軸・地球軸での新しいイノベーションを創出する基盤をつくります。

教育と研究の調和

教育と研究を調和させ、さらに学術とスポーツを調和させた学びを提供することで、家庭・社会・世界で必要とされる人材を社会に輩出していきます。

ダイバーシティとグローバル化

多様な人材がのびやかに活動できる環境と風土をつくります。グローバル化による多様な交流を推進し、新たな価値を創造していきます。

地域の学びに貢献

少子高齢社会が進む日本において、地域社会の幅広い世代が学べる学習環境を提供します。またスポーツを軸とした社会連携を通じて、地域社会が有する課題の解決に挑戦していきます。

財政基盤の再構築

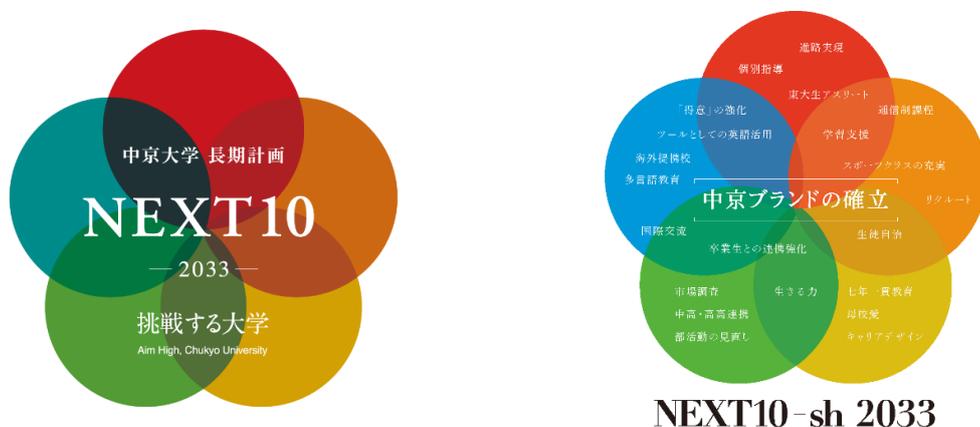
中長期的視点での経営を継続し、教育機関として健全でゆがまない財政基盤へ向けて再構築を図ります。

4. 「NEXT10 2033」、 「NEXT10-sh 2033」

中京大学は、2024年（令和6年）に迎えた開学70周年を機に、教育・研究を主軸とした様々な改革を推し進めるため、2014年から進めてきた「NEXT10」を引き継ぐ新たな10年間の長期計画「NEXT10 2033」を策定しました。

「NEXT10 2033」では、教育、研究、国際化、学生支援、社会連携・社会貢献を5つの骨子とし、10の推進分野（教育、研究、大学院、留学・国際交流、学生支援、キャリア教育・支援、社会連携・社会貢献、学生の受け入れ、大学運営、財務）を設定しました。2024年度より各推進分野において、すべての教職員と学生が協働で様々な施策に全力で取り組むことでさらなる改革に挑戦していきます。

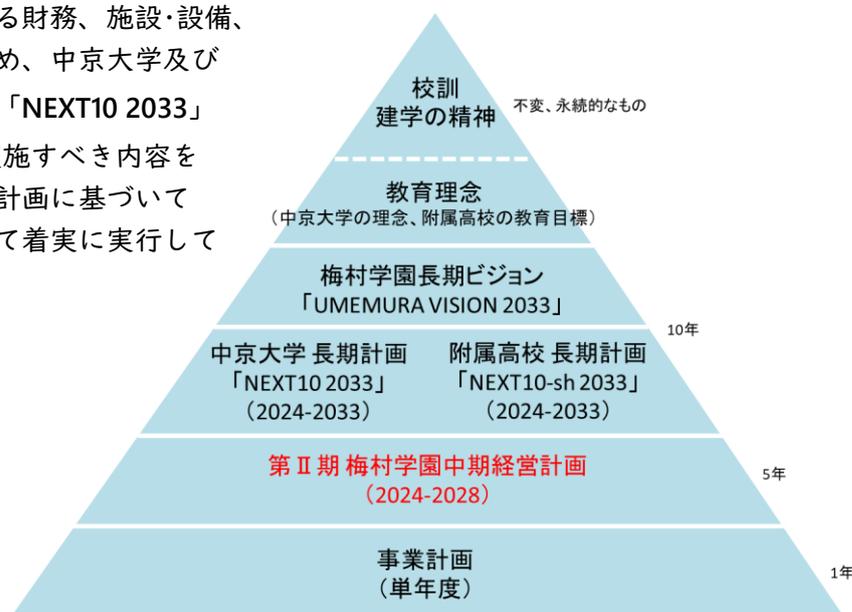
また、附属高校においても同様に教育、教科外活動、高大連携、社会連携、国際化を5つの骨子とした「NEXT10-sh 2033」を策定しました。中京大学「NEXT10 2033」と連動し、高大連携の強みを発揮した教育を提供することで、中学生の次なる目的地となるような常に魅力ある高等学校で在り続けるべく、様々な施策を展開していきます。



5. 第Ⅱ期中期経営計画の概要

第Ⅱ期中期経営計画は、2024年度から2028年度の5年間で梅村学園が長期ビジョンを実現するための施策の方向性をまとめたものです。

当該計画は、本学園として遂行する財務、施設・設備、人事、スポーツの4つの項目をはじめ、中京大学及び附属高校が、各校の長期計画である「NEXT10 2033」及び「NEXT10-sh 2033」において実施すべき内容を中期的な視点でまとめており、当該計画に基づいて策定した年度ごとの事業計画に沿って着実に実行していくこととなります。



6.アクションプラン（法人）

1) 財務

18歳人口の減少や入学定員管理の厳格化、更には国際情勢の動向に伴う経済環境の悪化等の厳しい環境の中、今後、長期計画「NEXT10 2033」及び「NEXT10-sh 2033」の各推進分野における諸施策を着実に実行していくためには、持続可能な財政基盤が求められることとなります。大学、附属高校とも現在の定員を維持することで、安定した学費収入を確保したうえで、補助金の獲得、恒常的な寄付金の募集、効率的な資産運用などによる収入面の多角化を推進します。

また、支出面では限られた財源の最適配分のため、戦略的な予算編成を行います。その上で、健全な財務体質を測定する財務指標を学園の目標値として、以下のとおり設定し、実質的なPDCAサイクルを導入することで中長期的な収支の均衡を図ります。

| フローに関する指標（事業活動収支計算書関係比率） | |
|--------------------------|-------|
| 学生生徒等納付金比率 | 83%未満 |
| 教育研究経費比率 | 38%以上 |
| 事業活動収支差額比率 | 8%以上 |

| ストックに関する指標（貸借対照表関係比率） | |
|-----------------------|--------|
| 純資産構成比率 | 92%以上 |
| 積立率 | 103%以上 |

2) 施設・設備

中京大学の施設整備計画（キャンパスマスタープラン）の第1期整備では、学生・教職員の満足度や利便性のさらなる向上を目的として、名古屋キャンパスの学生食堂を全面的に改修します。また、教育研究基盤の機能強化を目的として、名古屋キャンパス4号館西館の移転先等を含めた実施計画を策定した上で、第2期整備にて移転工事を実施し、続く第3期整備における改修工事ではリファイニング建築の手法を用いることで、工期の短縮と建築コストの削減をしつつ、建物の再生・長寿命化による持続可能な施設・設備とすることを目指します。そして、第4期整備においては、名古屋キャンパス3号館・4号館中館の解体と新3号館の建設準備を進め、2030年度前期の建物完成を目標に着工に移していきます。

豊田キャンパスにおいては、建物の劣化度や利用頻度等を確認しながら、大規模修繕の優先順位を決めるとともに、キャンパス全体のゾーニングを通じたコンパクト化を検討します。附属高校においては、既存建物の長寿命化を軸とした整備計画を策定し、好文館（体育館）をはじめとする老朽化した建物等について優先的に大規模修繕に着手していきます。

3) 人事

中京大学の教員においては、設置計画に基づいた確実な人員確保を行うとともに、採用に当たっては、専任教員（教授、准教授、講師）に加え、役割や学部等の実情に合わせながら、多様な有期の雇用形態も活用します。特に、テニュアトラック制度の活用には、優秀な若手人材の獲得を行います。また、女性活躍推進法に基づく行動計画実現のため、女性教員の採用を計画的に行います。附属高校においては、校長を中心とする管理職の責任と権限を明確にするとともに、実効性のある学校経営を行うために学則等の諸規程を見直します。

職員においては、行政職と特定業務職に求められる役割を明確にし、経験や適性を考慮した採用や人員配置を行うことにより、組織の安定化を図ります。特定業務職が定型業務を担うことで、行政職が法人・大学経営の改革に取り組める環境を整備します。また、障害者雇用促進法の趣旨に則り、障害者の採用を積極的に行います。

さらに、社会の変化の予測が難しい状況を踏まえ、自ら課題を発見し、迅速に対応できる人材の育成を目指します。具体的には、教職員の資質向上のため、全学的な研修を実施し SD の強化を行うとともに、職種や役職に応じた能力の開発・発揮に主眼をおいた職員研修制度の拡充を行います。

4) スポーツ

梅村学園が取り組む社会連携・社会貢献をさらに推進させ、スポーツを活用した学園全体のブランディングを実現するため、スポーツに関わるリソースや取り組みを一元的に統括管理し、有機的に活用展開していくための組織を設立します。具体的な計画として、まずは教学・競技に関わるステークホルダーを集め、スポーツ活動に関する管理・運営を行う会議体を設置し、必要な機能の整理を行います。その上で、大学スポーツを軸とした地域社会の活性化に向けた施策やマイルストーンを改めて検討し、実行に移します。アスレチック部門の活動においては、学内外へ向けた周知を目的としたプロモーション活動を実施し、アスレチック部門を活用することによって、法人全体のスポーツ価値を可視化し向上させ、社会からの様々な要請に応えられるような環境整備を通じてスポーツ競技の強化に向けた好循環を創出していきます。更には、アスレチック部門がハブになることで、強化スポーツを中心とした高大連携での 7 年計画での選手育成を推進します。附属高校における通信制課程卒業者の受け入れ体制の整備も教学との連携で実施していきます。

7.アクションプラン（大学）

1) 教育

中京大学の強み・特徴を活かせる教育や問題解決力やデータリテラシー等の社会的ニーズの高い教育について、提供すべき教育の優先順位を整理したうえで、正課又は正課外の教育プログラムとして検討し実施します。また、実施する教育施策について客観的に把握し改善につなげられるよう、教学IRを行うためのハード面・ソフト面の基盤構築を進め、学生の学びの意欲促進と学びの時間確保に資する施策展開や教育制度の見直しについて検討します。

さらに、地域連携プラットフォームのリソースを活用した教育の展開、多様な学生が主体的に学ぶことができる学習環境やアカデミック・スキルの修得を目的とした支援方法等についても検討を進めます。

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 推進事項① | 新たな時代を切り拓く教育の推進 |
| 主な施策① | 中京大学の特色を活かした教育の展開 |
| 主な施策② | 新たな価値を創造する人材を生み出す多様で柔軟な教育プログラムの推進 |
| 主な施策③ | 問題解決に必要な基盤をつくる教育プログラムの推進 |
| 推進事項② | 教育の質向上に資する教育制度等の充実 |
| 主な施策① | 教育の質向上に資するデジタル技術を活用した教学IRの推進 |
| 主な施策② | 学生の学修意欲を向上させ、学修効果を高める教育プログラムや制度の推進 |
| 主な施策③ | 新たな学びの形に対応する授業設計支援 |
| 推進事項③ | 学修効果・学修意欲を向上させる学修環境の整備 |
| 主な施策① | 学外機関との連携を活かした多様な教育プラットフォームの構築 |
| 主な施策② | 多様な学生が自由かつ主体的に学び学修意欲を高めることができる環境の整備 |
| 主な施策③ | 個々人の可能性を最大限に伸長する学修環境の整備 |

2) 研究

総合大学として、各分野の特色ある研究活動の加速および分野横断型の共同研究を推進するための新たな研究拠点を形成します。さらに、研究IRを活用した研究推進総合計画を策定したうえで、持続的な研究力の向上と社会への成果発信を図り、研究ブランド向上を目指します。また、研究支援体制を充実させるため、専門的知識を有した支援人材の雇用、育成を図り、若手・女性研究者のための研究助成制度の展開と研究活動に伴うリスクマネジメント環境の整備を一層進めます。産官学連携の推進においては、地域課題をはじめとした多岐にわたる社会課題の解決に挑戦していくことで大学としての使命を果たし、多様なステークホルダーと共に未来に向けた社会のイノベーションに貢献します。

| | |
|-------|---|
| 推進事項① | 建学の精神に基づいた本学の専門知・総合知による研究の推進 |
| 主な施策① | 本学の知が結集した研究拠点の形成による更なる研究活動の発展 |
| 主な施策② | 社会への適切な情報発信の実現 |
| 主な施策③ | 長期的なリサーチビジョンに基づく多様な研究分野に応じた研究活動の推進 |
| 推進事項② | 研究支援体制のさらなる充実 |
| 主な施策① | 研究者の成長や萌芽的研究への挑戦を促進する研究支援制度の展開 |
| 主な施策② | 健全な研究風土の醸成と安心・安全な研究環境の整備 |
| 主な施策③ | 幅広い研究支援に対応できる専門人材の雇用と育成 |
| 推進事項③ | 外部機関との相互連携強化 |
| 主な施策① | 本学の専門知・総合知を最大限に活用した産官学連携の強化 |
| 主な施策② | 産官学連携における研究者間の交流の促進と社会課題の解決への寄与 |
| 主な施策③ | 産官学連携を通じたOn the Project Trainingによる高度専門人材の育成と社会への輩出 |

3) 大学院

社会にとって必要とされる人材を養成・輩出し続けるため、大学院学生のポテンシャルを開花することができる教育体制・研究環境の整備を行います。また、大学院学生は、博士前期（修士）課程は2年間、博士後期課程は3年間という限られた時間の中で自らの研究を深化させながら自身のキャリアも模索していくことになることから、大学院学生の満足度が得られる多様なキャリア支援を展開していきます。

そして、学士課程からの進学者だけではなく、外国人留学生や学び直しの必要性が求められる社会人など、多様な入学者を受け入れていくための入試制度についても検討・整備していくことで、大学院教育に対する「学び」のニーズに絶えず対応し続けていきます。

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 推進事項① | 充実した教育体制・研究環境の提供 |
| 主な施策① | 学問分野および学修者の多様性に即した研究環境の整備 |
| 主な施策② | 産官学連携によるカリキュラム改正 |
| 主な施策③ | デジタル技術を活用した学修環境の整備 |
| 推進事項② | キャリア支援の強化 |
| 主な施策① | 博士前期（修士）課程入学予定者を対象とする早期就業支援 |
| 主な施策② | 産官学連携によるキャリアパスの提示 |
| 推進事項③ | 多様な入学者の受け入れ |
| 主な施策① | 高等学校および学士課程との連携教育 |
| 主な施策② | 多様な入学志願者に対応した入試制度の整備 |
| 主な施策③ | 入学志願者獲得のための戦略的かつ効果的な広報の実施 |

4) 国際化

学生の海外派遣においては、より多くの学生が海外留学・研修に参加できるよう、学部主催のプログラムやグローバル教育センター主催のプログラムの充実化に資する施策を推し進めるとともに、中長期の留学に対する留学費用軽減施策の取り組みを行います。協定留学生の受け入れにおいては、受け入れ人数の拡大に資する協定留学生向け科目群の整備及び協定留学生との交流プログラム運営を行う国際交流学生ボランティア組織の強化を推し進めます。大学全体の国際化推進のための環境整備としては、学生全体の英語運用能力向上に資する英語学習環境の整備から取り組み、キャンパスのハード面の整備や組織の体制整備について順次実施していきます。

| | |
|--------------|--|
| 推進事項① | 学生の海外派遣拡大と留学効果の最大化に向けた取り組みの推進 |
| 主な施策① | 学部の専門性をベースとした留学プログラムの整備・強化 |
| 主な施策② | 留学を中核とした成長プロセスの可視化と留学経験の言語化 |
| 主な施策③ | 外国語運用能力向上と異文化理解促進をベースとした留学プログラムの更なる整備・拡充 |
| 推進事項② | 協定留学生の受け入れ促進と海外協定校等との更なる連携の強化 |
| 主な施策① | 協定留学生の日本語習熟度や興味・関心に則した授業カリキュラムの整備 |
| 主な施策② | 国際交流学生ボランティアの運営体制の整備と組織の自走化に向けた取組 |
| 主な施策③ | 海外協定校との重層的な学生交流の推進と教育連携パートナーシップの形成 |
| 推進事項③ | 国際化推進のための環境整備と多様性溢れるキャンパスの実現 |
| 主な施策① | 国際化を強力に推進する体制整備 |
| 主な施策② | 「キャンパスのシンボル」に成り得る国際交流施設の設置と機能・体制の整備 |
| 主な施策③ | 英語資格・検定試験対策を軸とした英語教育・学習環境の再構築と充実化 |
| 主な施策④ | 留学費用の負担軽減を目的とした奨学金の拡充 |

5) 学生支援

学生が正課外活動等に対して積極的に取り組むことができるような施設・設備や情報発信体制などの環境を整備することにより、学生一人ひとりの主体的な活動を促し、学生生活のさらなる充実化を目指します。また、コミュニケーションスペースの設置や学食の改装等を行い、全ての学生が所属キャンパスに関係なく交流できる場所を提供します。

さらに、ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて、施設を整備するとともに、全学共通科目や学部固有科目において障害者・LGBT等・留学生などへの多様性を理解することを目的とした授業科目等を設置し、互いに認め合うことができるキャンパスづくりや学生と教職員の意識を醸成していきます。併せて、社会貢献活動をより一層促進できるよう、学生のボランティア活動を支援する仕組みや体制を構築します。

| | |
|--------------|-------------------------------|
| 推進事項① | 学生生活環境のさらなる充実 |
| 主な施策① | 学生の主体的な活動を促す環境整備 |
| 主な施策② | 人と人との交流を活性化させる場の形成 |
| 主な施策③ | 学生生活に必要な情報発信体制の整備 |
| 推進事項② | 多様な学生への支援 |
| 主な施策① | 全学的な多様性の理解促進と支援の推進 |
| 主な施策② | 学生の多様性に対応可能なサポート体制の拡充と機能の強化 |
| 主な施策③ | 学生のニーズに即した経済支援制度の整備と拡充 |
| 推進事項③ | 建学の精神、四大綱を体現する正課外活動の推進 |
| 主な施策① | 正課外活動の支援体制の再構築と活動場所の整備・新設 |
| 主な施策② | ボランティア活動の活性化による社会貢献 |
| 主な施策③ | 正課外活動の情報発信体制の整備 |

6) キャリア教育・支援

目まぐるしく変わる社会環境に流されることなく、学生が自らの意思によって将来を見据え、主体的に考えながら自分でキャリアを切り拓いていく力を育めるよう、入学から卒業までを見通した体系的なキャリア教育・支援体制を構築します。

また、学生の就職活動支援をより一層強化するため、データベースやAI等の活用、卒業生や企業などの外部機関との連携等により、きめ細やかでその時代に適した実践的な就職活動支援を行っていきます。併せて、多様な属性を持った学生に対して、各々が必要としている情報を提供できるような体制を整備し、誰一人取り残すことの無いようなキャリア・就職活動支援を行います。

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 推進事項① | 低年次からの体系的なキャリア教育・支援の拡充 |
| 主な施策① | 自らの進路を意識した大学生活を過ごすためのキャリア支援の強化 |
| 主な施策② | 教職協働によるキャリア支援 |
| 主な施策③ | キャリア形成科目のさらなる充実 |
| 推進事項② | 就職活動支援プログラムの充実 |
| 主な施策① | 多種多様できめ細やかな就職活動支援 |
| 主な施策② | 企業との連携強化 |
| 主な施策③ | 卒業生に対する就職活動支援 |
| 推進事項③ | 多様な学生に対する支援強化 |
| 主な施策① | 多様な学生に対するキャリア・就職支援 |
| 主な施策② | 学生のニーズに即した就職支援 |

7) 社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献に係る取り組みを一体的に取り扱う組織として、中京大学社会連携センター（仮称）および専門行政部署を設置することで、多岐にわたる「社会連携」を一体的に統括し、社会と大学をつなぎ、活性化するための体制を構築します。

また、本学を拠点に卒業生や地域住民のコミュニティ活動が活発になるよう、在学生との交流や生涯学習プログラムの提供、地域の人が集えるスペースの設置等を検討します。

大学スポーツについては、スポーツ地域貢献活動を取りまとめる法人の設立についての検討を進めます。また、スポーツを通して教育・研究成果を地域社会に還元するだけでなく、スポーツスクール拡大や社会課題でもある部活動地域移行システムを行政と協働し構築します。

| | |
|--------------|--|
| 推進事項① | 社会連携による新たな「価値」の創造（学生、教職員×地域社会） |
| 主な施策① | 社会連携を加速させる推進体制の構築 |
| 主な施策② | 社会連携活性化のための充実した支援制度の設計 |
| 主な施策③ | 学生参加型「域学連携」の推進 |
| 主な施策④ | 知的資源・資産を活用した産官学連携の推進 |
| 推進事項② | 中京大学を核とした共学・共創コミュニティの形成（キャンパス・卒業生×地域社会） |
| 主な施策① | 魅力ある卒業生コミュニティへの再編と活性化促進 |
| 主な施策② | 地域発信型の生涯学習プログラムの提供 |
| 主な施策③ | 地域社会に開かれたキャンパスづくり（キャンパスに集える仕組みづくり） |
| 推進事項③ | 大学スポーツを軸とした地域社会の活性化（スポーツ×地域社会） |
| 主な施策① | スポーツを通じた社会貢献活動の推進と組織の法人化 |
| 主な施策② | 授業、部活動等に関する小中学校との連携体制の構築 |
| 主な施策③ | 地域市民へのスポーツ分野における教育・研究成果の還元 |
| 主な施策④ | 応援文化の醸成を目的とした両キャンパスのスポーツ施設充実 |

8) 学生の受け入れ

18歳人口の急激な減少に伴う大学全入時代を迎え、学生確保に向けた競争が激化する中、多様な背景を持った学生の受け入れを可能とする広報施策・入試施策の検討を進めます。その上で、中京大学のブランド力を高める教育・研究の内容及び成果をステークホルダーに対して広報し、それらに共感した学習意欲の高い学生を受け入れることにより、さらに高度な教育・研究を推進します。

また、国が推進する「高大接続改革」に取り組むため、高大連携事業を通じて附属高校や協定校の生徒が本学の教育・研究に触れる機会を促進し、進学意欲を高める施策を実行します。

| | |
|--------------|--|
| 推進事項① | 多様な背景を持った学生の受け入れ |
| 主な施策① | 優秀な外国人留学生獲得のための国内外への広報戦略の策定と入試方法の見直し |
| 主な施策② | 東海圏以外からの入学者獲得のための広報活動を含む入試施策の検討 |
| 主な施策③ | 豊かな経験を持つ人材の獲得のための入試施策などの検討 |
| 推進事項② | 本学のブランド力を高める積極的な学部再編・カリキュラム改正及び効果的な広報展開 |
| 主な施策① | 全学的に統一感の取れたデザインで、本学の魅力ある教育・研究分野を情報発信 |
| 主な施策② | デジタルツールを活用しつつ、様々なステークホルダーにマッチした魅力あるコンテンツの発信 |
| 主な施策③ | 時代のニーズを見据えた学部再編等の検討及びカリキュラム改正の継続 |
| 推進事項③ | 高大連携の充実と大学レベルの教育研究に触れる機会の促進 |
| 主な施策① | 附属高校及び協定校等における高大連携事業のさらなる推進 |
| 主な施策② | 高大連携事業を共に行う協定校の拡充と緊密な連携関係の構築 |
| 主な施策③ | 理系学部への安定した入学者確保に向けた高大連携プログラムの拡充 |

9) 大学運営

全学的な危機管理体制の強化として、防災においては、ソフト面を中心に対策を講じることで、教職員の防災意識を高めます。また、コンプライアンスの推進においては、基本方針を策定し、コンプライアンス対策を全学的に管理できる体制とします。そして、DXの推進では、電子決裁システムやRPAの活用により、業務の効率化及びペーパーレス化を推進するほか、チャットボットの性能改善及び学内施設のキャッシュレス化を進めることで学生の満足度向上を図ります。

さらに、専任教員の意欲を高め、教育・研究のさらなる質の向上を目的として、教員業績評価を導入します。また、SDの強化を行うとともに、職員に対する新たな育成制度を策定します。育児、療養等の事情で雇用不安が生じないように、職場環境の整備を進めます。

| | |
|--------------|---------------------------------|
| 推進事項① | 危機管理体制の構築 |
| 主な施策① | 大規模自然災害に対応可能な防災体制の構築 |
| 主な施策② | コンプライアンス活動の推進 |
| 主な施策③ | 安定的な情報インフラ体制の構築と情報セキュリティ対策の推進 |
| 推進事項② | DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進 |
| 主な施策① | 定型的な事務業務へのRPA導入とその推進 |
| 主な施策② | 書類・印刷物等のペーパーレス化の推進 |
| 主な施策③ | DXを活用した学生支援サービスにおける満足度向上 |
| 推進事項③ | 就業意欲の向上による組織力の強化 |
| 主な施策① | 教員評価制度の導入 |
| 主な施策② | SDの強化 |
| 主な施策③ | 快適かつ健全な職場環境形成の促進 |

10) 財務

大学の財政運営は、年度単位での予算編成と執行によって行われている一方で、事業の中には複数年度にわたるものや、多額の投資を必要とするものが計画されています。これを踏まえ、支出面においては、集中的に予算を投下する事業について、管理会計的手法等を用いながら各事業を客観的に点検・評価できるような仕組みを構築します。収入面においては、寄付金募集事業をはじめとする外部資金による財源の確保を積極的に行います。

また、キャンパスマスタープランに基づく施設整備を通じて、教育研究活動の発展と強化やさらなる社会貢献の推進、大規模災害への対策強化などを行い、魅力的なキャンパスづくりを進める中で本学の新たな価値の創出へと繋がります。加えて、情報セキュリティ対策の強化や最新技術を取り入れたICTシステムを導入することで、安心・安全かつ快適で使いやすい情報環境の整備を進め、教育研究活動を支える学術情報基盤の再構築を行います。

| | |
|--------------|---|
| 推進事項① | 財政基盤の強化 |
| 主な施策① | 各事業に関する予算の点検と評価方法の構築 |
| 主な施策② | より分かりやすい財務情報の提供 |
| 主な施策③ | 多様な財源による収入増 |
| 推進事項② | 中長期的な施設整備計画に基づいた、キャンパス整備の推進と新たな価値の創出 |
| 主な施策① | 教育研究活動の活性化に資するキャンパスの新たな価値創出 |
| 主な施策② | 社会と共生するサステナブルキャンパスへの進化 |
| 主な施策③ | 中長期保全計画の策定と実施 |
| 推進事項③ | 学修効果・学修意欲を向上させる学修環境の整備 |
| 主な施策① | 戦略的な情報化推進と情報環境の整備拡充 |
| 主な施策② | 図書館のデジタル化推進及び図書館の有効活用 |

8.アクションプラン（高校）

1) 教育

「社会にどう貢献するか」という視点で自分のキャリアを考えることで、視野を拓き、自己肯定感を高めていきます。そのために、生徒と社会を繋げるキャリア教育を行います。具体策として、①卒業生情報を収集・整理・活用した高大連携行事の深化 ②苦手の克服という従来の進路指導から「自分のやりたいこと、得意なことを極める」を軸とした偏差値で選ばない進路指導への発展 ③探究活動の深化を目指した企業とのマッチング ④プレゼンテーションに求められる力の育成に向けてのデジタル環境整備 といった教育活動を展開します。

| | |
|-----|--------------------------------|
| 施策① | 個別最適な学びのための体制づくり |
| 施策② | 「探究×キャリアデザイン」多様な活動のためのデジタル環境整備 |

2) 教科外活動

スポーツの分野で強化指定部が中心となり、全国大会で活躍しながら常勝を目指します。競技だけでなく、学校生活の中での学びを充実させ、他にないスポーツ分野での魅力を作り上げます。

具体的には、体育総合やスポーツクラス独自で展開するプログラムを完成させ、大学や企業と連携して「スポーツを通しての学び」を教科指導以外の部分で充実させます。連携相手先にも高校生と繋がることでの魅力の発見や、データの獲得など互いにメリットを見出すことに加えて、スポーツ分野の広報を充実させ、ホームページ上にパンフレットや記録を掲載することにより情報を広く伝えていきます。

さらに、施設面においても附属高校ならではの施設を完成させます。

| | |
|-----|----------------------------------|
| 施策① | スポーツクラス独自のプログラムを完成 |
| 施策② | ホームページを活用した情報発信（パンフレット作成・SNSの活用） |
| 施策③ | アスリート食堂の実現（施設の拡張） |

3) 高大連携

10年後には梅村学園内に留まらない交流の輪を広げ、探究的な学びの成果を地域社会に還元する体系が創出された姿を目指すべく、5年後には様々な学部 of 学生×高校生×小中学生が共に学び合うシステム構築します。

具体的には、夏休みや冬休みの長期休暇期間内に行うイベント、例えば中京大学工学部、附属高校理科部、近隣中学生との連携行事といった参加者全員に大きなメリットがある内容を企画・立案し、実行します。このようなイベントの振り返りや参加者のアンケート集計を確実に行っていくことで、ブラッシュアップとアップデートを繰り返し、本学園が誇るイベントとします。

| | |
|-----|-----------------------------|
| 施策① | 校外組織との連携による個別最適な学びのための体制づくり |
| 施策② | 大学と高校のハブ組織設置 |

4) 社会連携

建学の精神に「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を掲げ、他の学校とは一線を画す特別な活動であるべき附属高校の部活動については、部活動改革の推進の中で、本校の伝統と外部人材の活用の融合によって魅力的な部活動の継続的・安定的な充実化を図ります。

また、スポーツや文化・芸術活動は、体力や技能の向上を図る目的以外に、異なる年齢層との交流を通じて生徒同士や生徒と教師等の好ましい人間関係の構築を図るなど、生徒の多様な学びの場としての教育的意義が大きい。このことから、スポーツの歴史と伝統ある本校だからこそできるスポーツや文化・芸術活動の普及活動の在り方を確立します。

| | |
|-----|-----------------------|
| 施策① | 「部活動公開講座」の設置 |
| 施策② | 大学や地域と連携した部活動の在り方の具体化 |

5) 国際化

国際コースの短期語学研修の内容を充実させるため、現在実施している語学学校での研修に限らず、現地の高校生との交流、フィールドワークや現地で働く人の話を聞く機会などを企画します。短期語学研修内容の充実化に加え、長期交換留学制度の確立のために必要な情報収集を行い、その実現のための具体的方法を模索します。併せて現存の海外提携校との関係を強化し、新規に提携できる学校を開拓します。

また、多言語教育の実現のため、中京大学との連携を図り、多言語の出張授業や大学の講義への参加などの可能性を探ります。さらに、様々な国や地域の学校へ積極的に連絡を取り、オンラインイベントだけではなく、共同でプロジェクトを実行するなど、世界に目を向けることができる機会を多く提供します。

| | |
|-----|----------------|
| 施策① | グローバル教育のさらなる充実 |
| 施策② | グローバルシティズンの育成 |